

良好胚盤胞移植における経腹超音波ガイド下と 経膈超音波ガイド下での比較検討

レディースクリニック北浜

貴志瑞季 今井和美 北川晴香 幸寺渚

上田鈴 篠原三佳 中西裕子 金森真希

奥裕嗣

第58回日本生殖医学会学術講演会
利益相反状態の開示

筆頭演者氏名： 貴志 瑞季
所 属： レディースクリニック北浜

私の今回の演題に関連して、開示すべき利益相反状態はありません。

目的

昨年、胚移植法の新しい試みとして経膈超音波ガイド下での胚移植法について報告した。(第58回日本生殖医学会)

経膈超音波ガイド下での胚移植法は経腹超音波ガイド下と比べて、尿を膀胱に充満させる必要がなく患者負担を軽減でき、超音波画像も鮮明であり、臨床成績も良好であると報告した。

本検討では、胚質・着床環境が臨床成績に影響が及ぼさない条件として、良好胚盤胞(ガードナー分類：3BB以上)を移植した症例を対象とし、胚移植法の違いが臨床成績に影響を及ぼすのか後方視的に比較検討した。

対象と方法

・ **期間** 2010年1月～2014年4月

・ **対象**

初回の凍結融解胚移植において良好胚盤胞(BL3BB以上)をDay5にて1個移植した39歳以下の患者(128症例)

・ **方法**

①新法(128症例128周期)と従来法(48症例48周期)の平均年齢・妊娠率・臨床的妊娠率を比較検討した。

②年齢別に分け、比較検討した。

新法と従来法

新法

(経膈超音波下での移植法)

- ◎ 超音波断層像
⇒ 明瞭
- ◎ 膀胱に尿をためる必要

なし

- ◎ 手技が容易

時間短縮

従来法

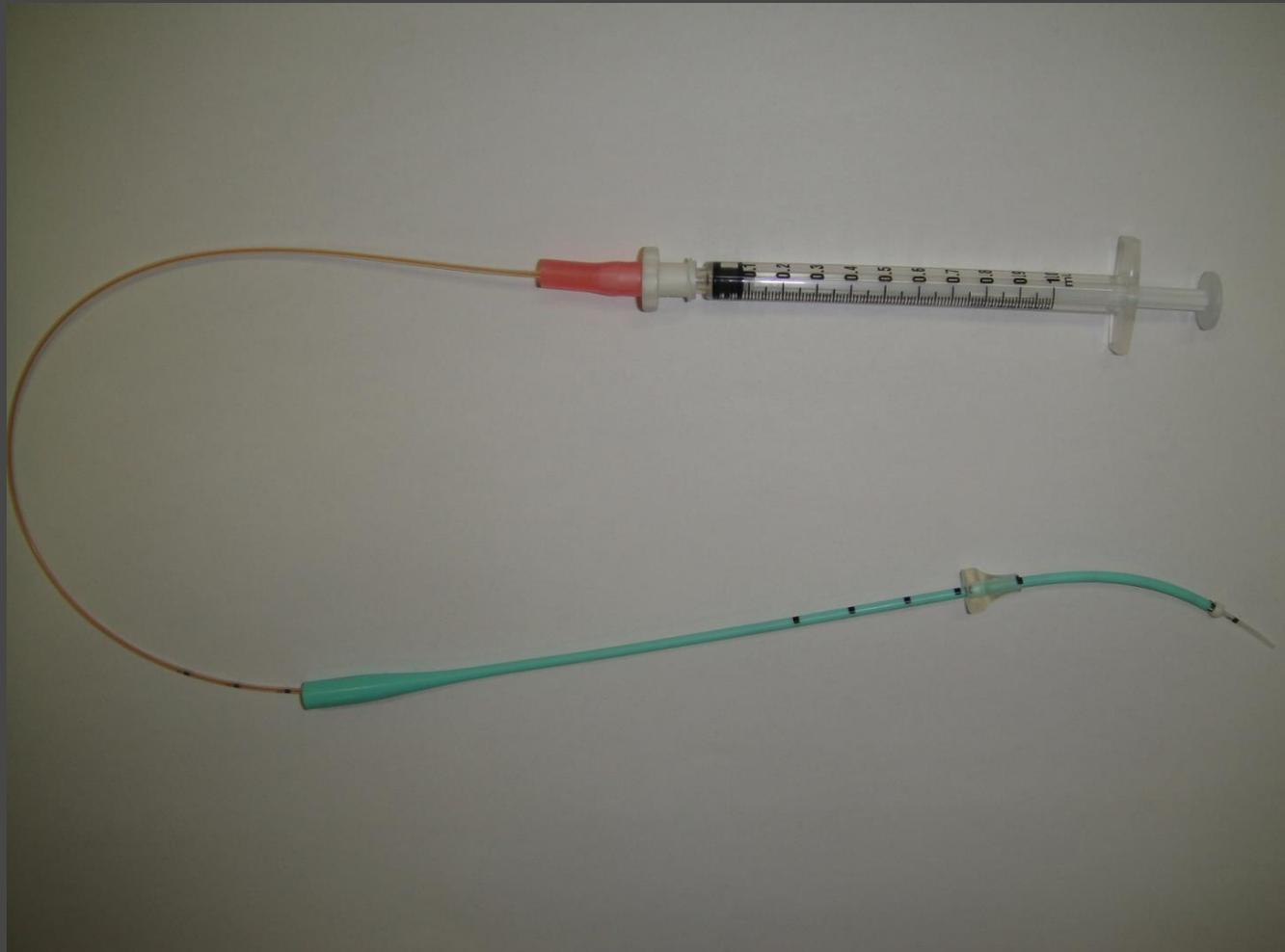
(経腹超音波下での移植法)

- ◎ 超音波断層像
⇒ 不明瞭
- ◎ 膀胱に尿をためる必要

あり

患者の苦痛

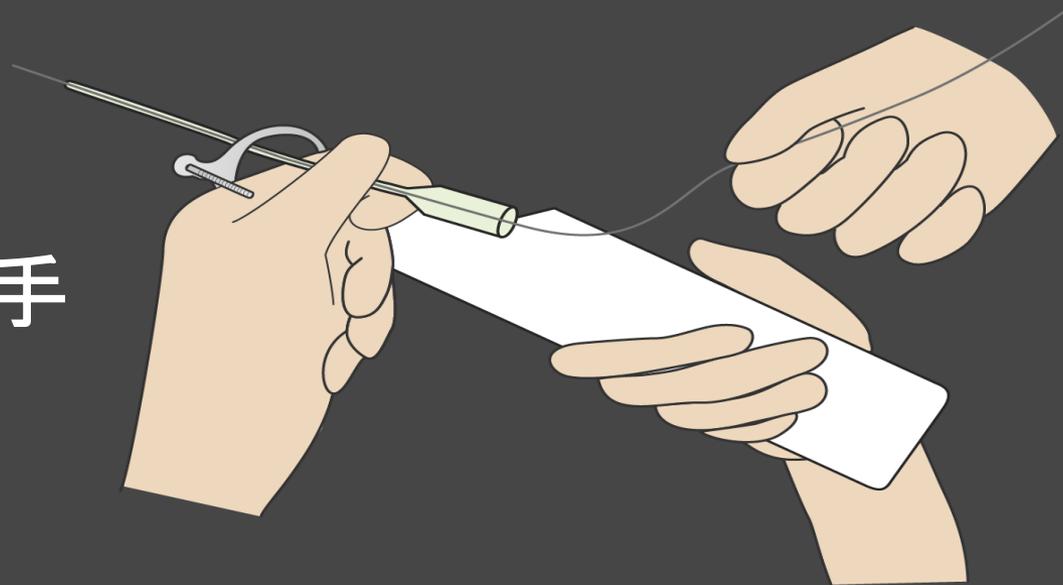
新しい胚移植法(カテーテル写真)



方法(図①:手の位置関係)

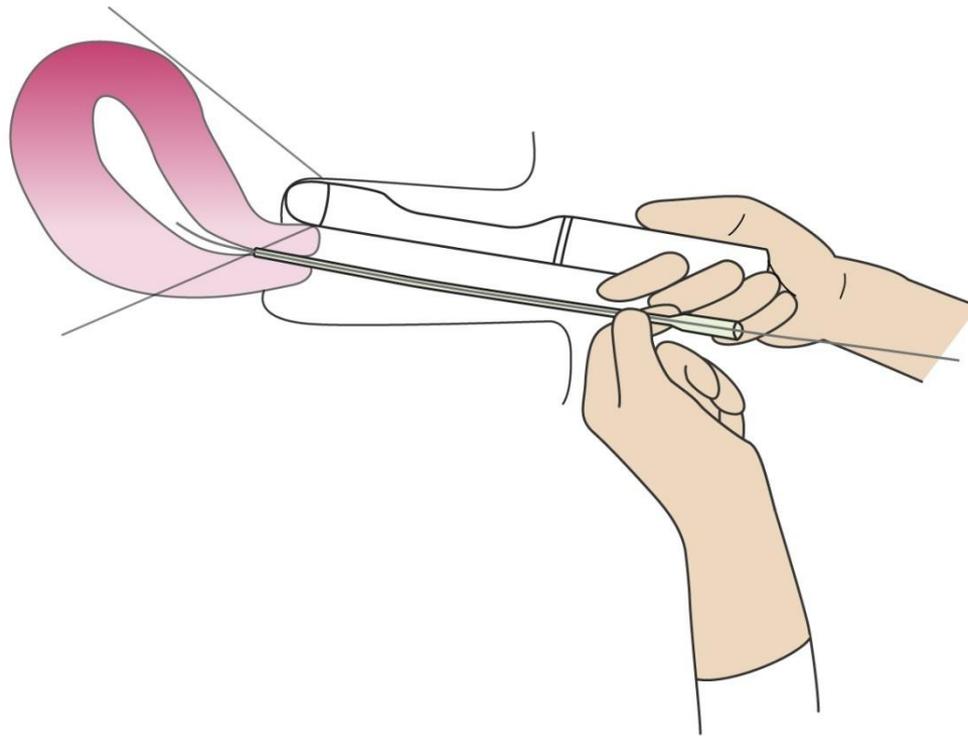
胚培養士の右手

医師の左手

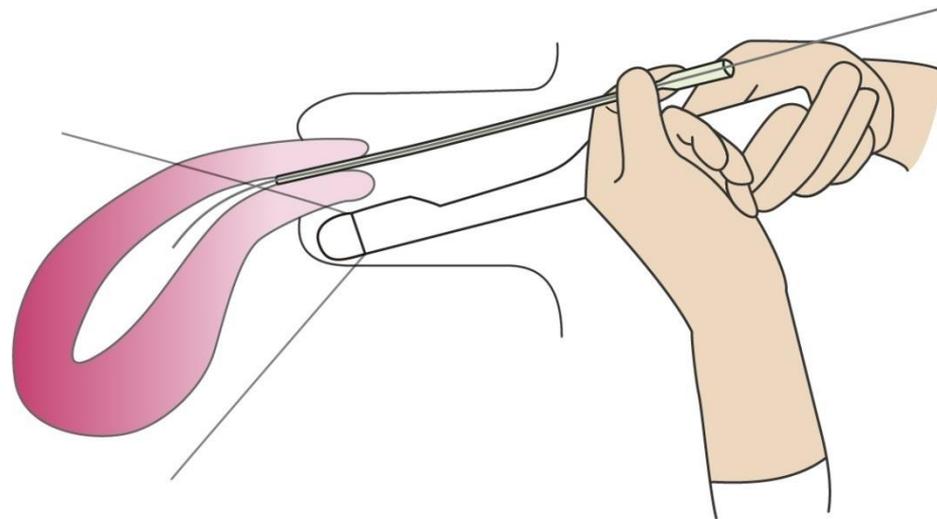


医師の右手

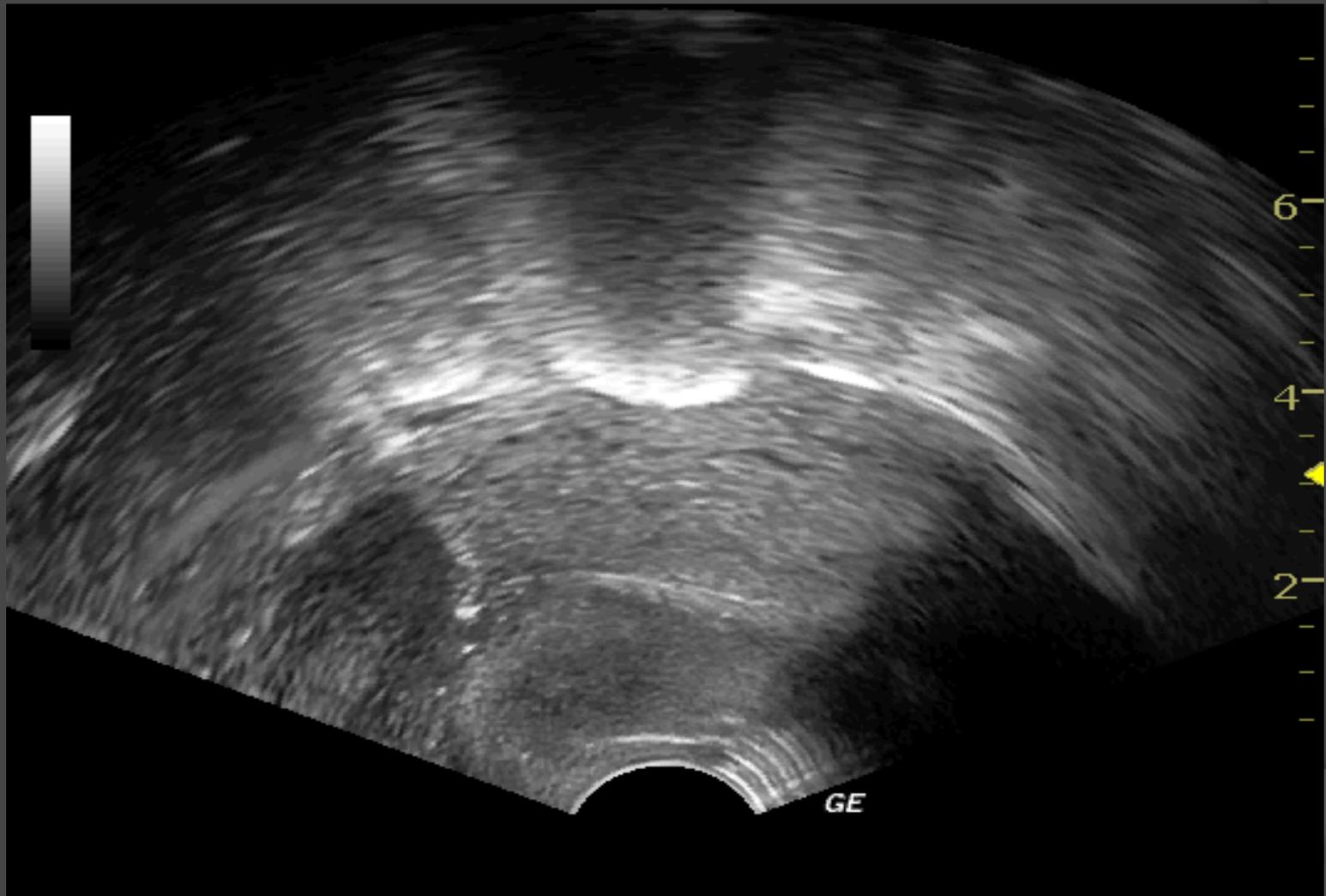
方法(図②:前屈の場合)



方法(図③:後屈の場合)



エコー画像



結果①

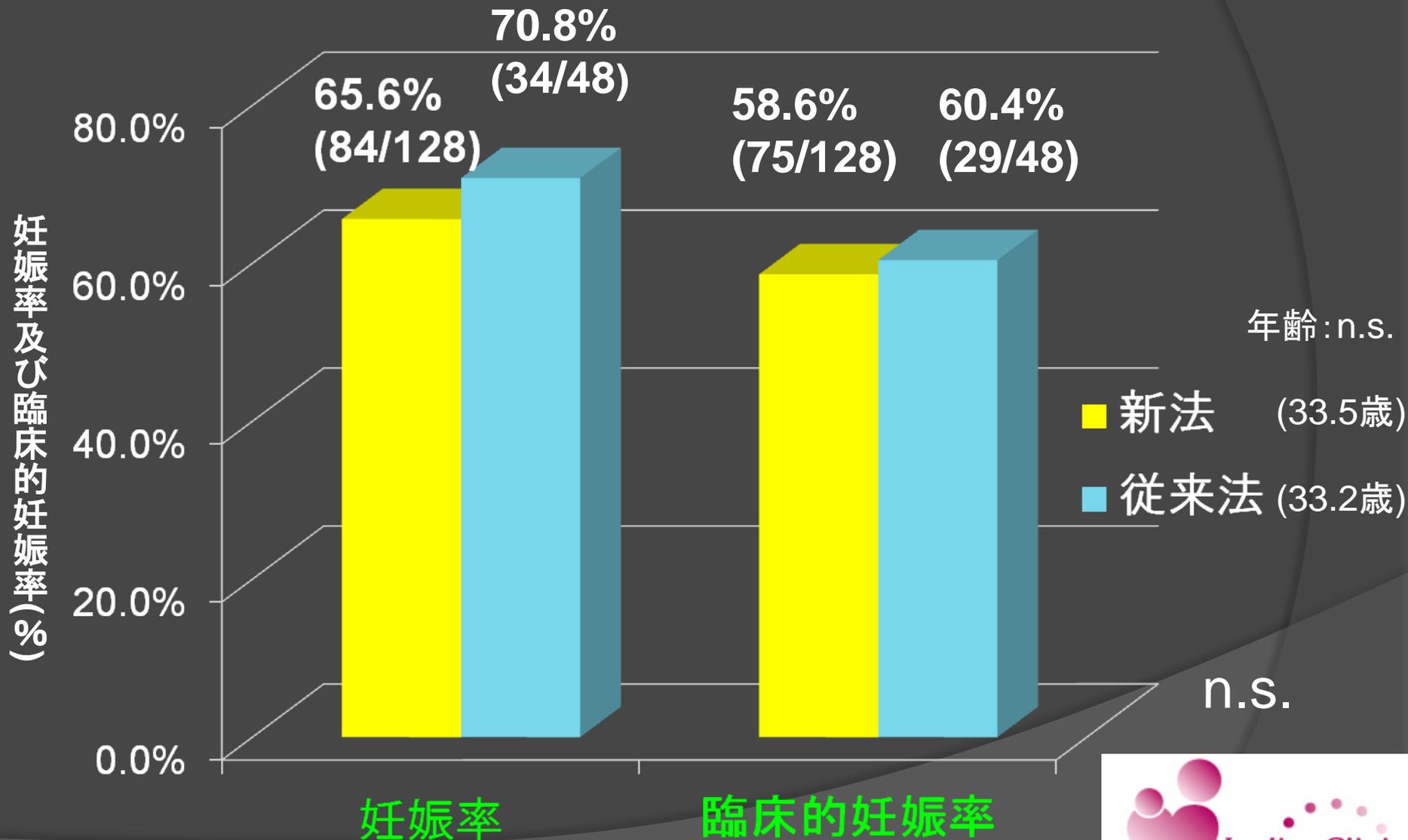


図1.新法と従来法における妊娠率及び臨床的妊娠率の比較

結果②(年齢別)

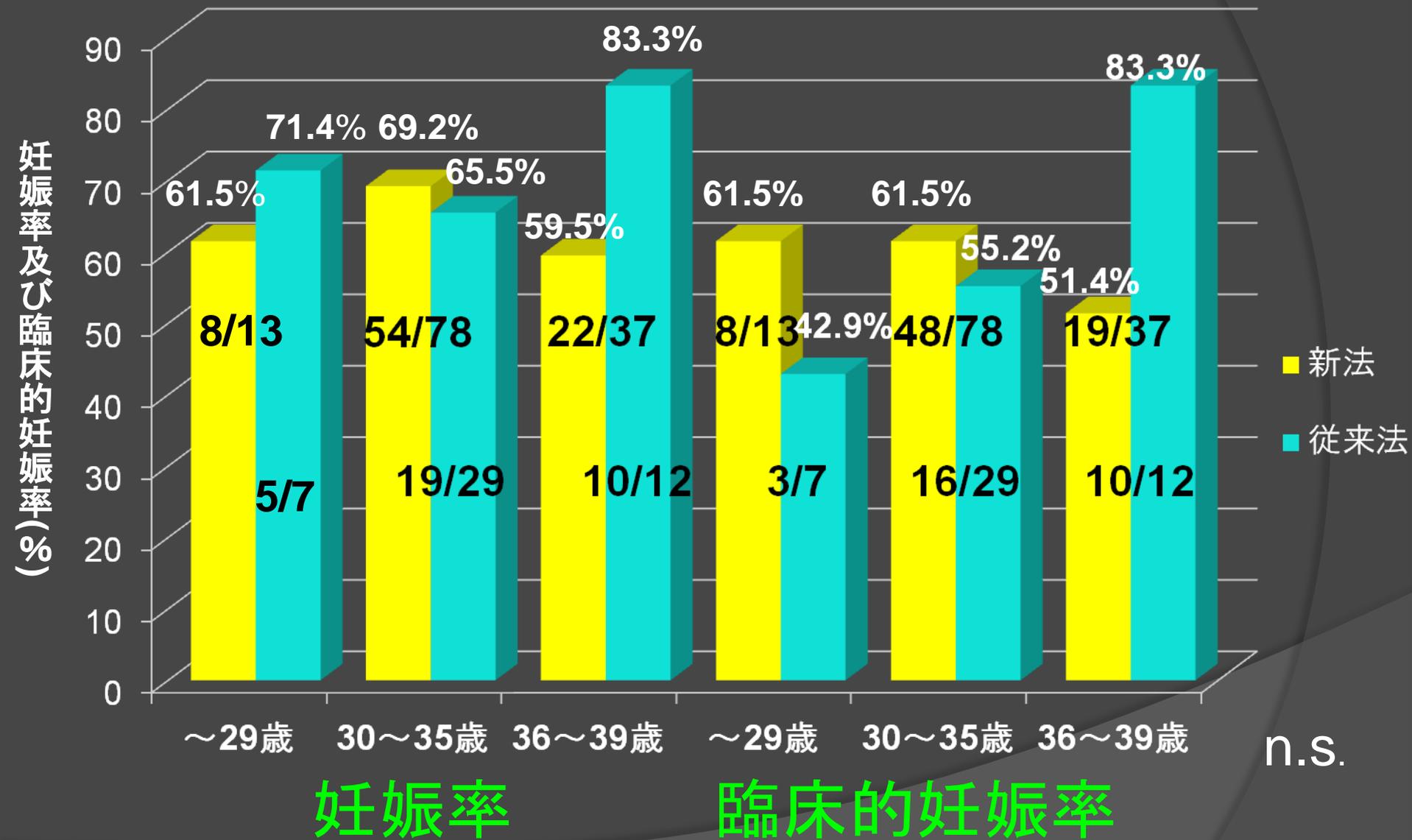


図2.年齢別の新法と従来法における妊娠率と臨床的妊娠率の比較

考察

- ◎ 新法においても、妊娠率・臨床的妊娠率ともに、従来法と比較し、良好な臨床成績が得られた。
- ◎ 新法は従来法に比べ、デメリットが少なく、患者負担の軽減、手技が容易、ET時間の短縮、超音波画像が鮮明に見える為、患者満足度が高いなどのメリットが大きい。
- ◎ 新法は鮮明な画像下における至適な位置への胚移植が可能である。
- ◎ 当院では、今後も新法を用いた胚移植法を継続する。